

本時のねらい

○様々な調査方法の利点や気を付けるべきことを考えながら、自分の調べたいことに適した調査方法を決め、調査の計画を立てる。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・ロイロノートのシンキングツールを使うことで、思考を深めたり、広げたりする。
- ・ロイロノートの学習計画に学習の成果を蓄積することで、自身の学習をふり返ったり、見通しを持ったりできるようにする。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・大型提示装置
- ・ロイロノート
- ・シンキングツール（ウェビング・Wチャート）

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	○前時までの学習をふり返り、本時のめあてを確認し、学習の見通しを持つ。 「報告文に書くテーマについて、調べる計画をたてよう」 【写真1】	○ロイロノートの学習計画を確認し、学習の見通しを持てるようにする。
展開 (35分)	○自分が報告文に書くテーマに関して、どのようなことを報告文に書くのか、テーマについて調べたい事柄を挙げていく。 例) 自動ドア…だれが発明したのか、何のためにあるのか ○報告文に書きたいことを2つ～4つ決め、それぞれの調べ方で調査を進めていくかを考える。 例) だれが発明したのか…本や資料・インターネット 何のためにあるのか…インターネット、実際に見る 【写真2】	○シンキングツール「ウェビング」を使うことで、自分の考えを広げやすくする。 ○シンキングツール「Wチャート」を使い、書きたいことを適切な調査方法に分類する。 ○複数のシンキングツールを組み合わせることで、よりスムーズに思考が深まるようにする。 ○タブレット上で作成することで、複数のシンキングツール間を移動させて考えやすい
まとめ (5分)	○今日の学習でうまくいったことや難しかったこと、次回からの調査に向けて頑張りたいことなどをふり返る。 【写真3】	○ふり返りを提出し、子ども同士で共有できるようにする。

1人1台端末を活用した活動の様子



【写真1】ロイロノートの学習計画



【写真2】シンキングツールを用いて、考えを広げている場面



【写真3】ふり返りを打ち込んでいる場面

児童生徒の反応や変容

- ・ロイロノートで学習計画を立てることで、学習全体の把握をして、見通しを持って学習することができた。
- ・ウェビングやWチャートなどのシンキングツールの使い方を学びながら使っていくことで、教科横断的に情報活用能力が身に付いてきている。
- ・シンキングツールを使うことで、個人思考や友だちとの話し合いや共有がスムーズになり、学習の成果も意欲も増してきた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・シンキングツールを使うことで、思考が自分自身、友だち、クラス全体へとつながり、主体的・対話的・深い学びにつながりやすくなった。
- ・高学年になると、タブレットの操作には慣れてくるので、シンキングツールの使い方や、学習計画の活かし方などをより丁寧に指導することを大切にしている。教員の指導力向上のための校内研修を経て、全校をあげて実施し、児童の情報活用能力を積み上げている。
- ・すべての作業がタイピングに支えられているため、中学年から継続的なタイピングの指導が重要である。